重要な構成要素「高木屋老舗（南）」

建築（主屋）：大正初期かそれ以前

参道の景観を構成する要素

「高木屋老舗（南）」は、向かい合う２棟の建物の南側店舗で、葛飾柴又の伝統的な名物「草団子」や和菓子を販売する店舗です。

参道に面して主屋があり、その奥に居住部分、菓子工場や従業員寮などの複数の建築が建ち並びます。1885（明治 16）年の営業許可証が残されており、菓子屋、煮売業、雑貨屋、米屋、タバコ屋などを営んできました。

主屋は、木造１階建て、平入り(注)で、瓦葺き切妻の屋根を持ち、天井高が４メートルを超える立ちの高い建築となっています。主屋の周囲には瓦屋根の下屋をめぐらせ、正面左手の屋根は隅棟となっています。参道に面した部分には、銅板屋根の下屋（庇）が伸びています。大正初期からそれ以前の建築と考えられ、柴又街道開通時に曳家された可能性があります。背面の柱の据え方は納屋や蔵に近い性格を感じさせる一方で、参道側は間隔を空けて設けられ、下屋（庇）部分も鉄製の柱でスパンを飛ばしており、開放的な印象を与えています。下屋（庇）や商品棚、ショーケース、のれん、看板、旗指物など参道に面した部分に賑わいをもたらす装置が多数設けられているのも特徴です。

昭和 30 年代

（注）建物の大棟に平行な面、すなわち平に出入口を設ける建築形式。また、平を正面に向けるもの。（広辞苑第七版）